

2018雪国直播サミット 技術向上セミナー



開会挨拶をする実行委員長の
新田慎太郎氏

▶1月21日

(北海道札幌市)

文／齊藤義崇

乾直人よ、集まれ〜!! 農業者自らが企画する集いへ

乾田直播に挑む者の集い「2018雪国直播サミット 技術向上セミナー」は実行委員会形式で北海道士を考へる会と共催し、去る1月21日、ホテルポールスター札幌で150名を超える参加者とともに開幕した。実行委員は私を含め14名で、委員長は北海道岩見沢市の新田慎太郎氏、事務局長を私が務めた。昨年12月に企画会議と称して招集すると、実行委員の面々はおもしろい催しをしようと腹案をたくさん抱えて、空知の某温泉に集合してくれた。

振り返ればこの集会の原点は、09年に北海道岩見沢市で開催した「雪国直播サミット」である。北海道と東北の乾直人の有志とスガノ農機、乾直技術を確立した技術者ら20名ほどの集いだった。あれから10年が過ぎ、いまや北国の水稲直播技術は十分に確立したと胸を張れるようになった。さらに、全国に乾直人の同志の輪が広がった。毎年恒例の開催を心待ちにする仲間が増え、参加者も参加企業も増える傾向なのはうれしいことである。

意外とできるようできないのが、農業者が自ら行事を企画し、実行することだ。地元の行事であれば、

役場や農協などから会場の予約も会計処理も心強いサポートを受けられる。しかし、このイベントの実行委員14名は道内に点在しており、北から南から移動距離は200kmを超える者もいて、頻繁には会えない。この距離の克服にこそ、目的意識の高さがあると私は思う。同窓会に出かけるような気持ちと、先駆者たる責任からか、面倒くさいと考へる人は一人もいない。楽しい集いで得たエネルギーが自己の経営の励みになることをよく知っているからである。

今年のテーマは 「クリニック」

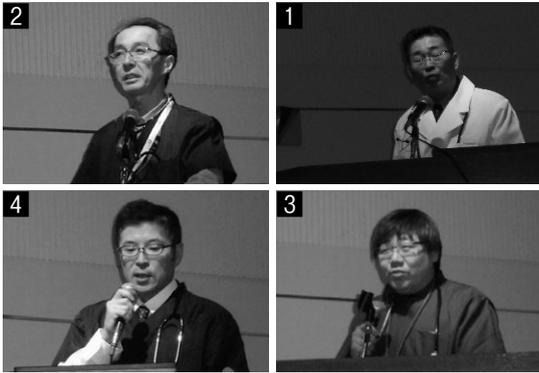
我々14名は白衣に聴診器を首から下げ、手術着を纏って医師に扮して登場し、某ドラマで見たような光景を演出した。今年のテーマはクリニックである。はじめに実行委員長の新田氏が挨拶し、今年以降の開催内容と実行委員の紹介をした。続いて、北海道土を考へる会の田村裕良会長から共催の挨拶をいただいた。我々の登場シーンは会場の笑いを誘い、楽しい時間が始まると想像させる開会式となった。

この日のプログラムは講演が5つと、恒例の名刺交換&企業商談会である。講演のトップバッターは、自稱「しくじり先生」こと妹背牛町の

田村裕良氏。「いまでも失敗する向きがある」と正直な経営状況を交えた講義となった。人間は失敗を知られることを恐れるが、この乾直人の集いにそんな常識はない。失敗談やあるある話の共有こそが、明日の技術革新の糧となるからだ。

2番手は名寄のエンターテナー、水間健詞氏が登壇した。昨春秋にドイツで開催された国際農機展アグリテクニカに仲間で行ってきたそうだ。せっかくだからみんなに情報を提供してほしいと依頼すると、快諾してくれた。農機の最新動向を写真と動画で、美女とのスナップ写真も加えて、相当な時間をかけて準備してくれたことが想像できた。会場内には同じ農機展に参加した人もいたのだが、視点がとくにおもしろく、現地の雰囲気伝わるプレゼンテーションだった。

続いて、三番手の由仁町・中村隆宏氏はももクロの背番号をつけての登場である。ももクロファンと乾直は無縁のように思えるが、楽しいという点でシェアできているらしい。乾直の経験も豊富だが、最近は良食味品種の「ななつぼし」を安定的に8俵半収穫できているという。「私、失敗しないので」というセリフとともに3年間の実績をデータと挿絵から笑いを取りつつ話してくれた。



個性際立つ講師陣。順に“しくじり先生”こと田村裕良氏 (1)、“名寄のエンターテナー”水間健詞氏 (2)、ももクロファンの中村隆宏氏 (3)、完璧なプレゼンで沸かせた辻村靖氏 (4)



医師に扮して登場した実行委員会の面々。楽しい集いは明日への励みと張り切った！



参加者らの集合写真。府県からの6名を含む150名が賑やかに集った



企業の出店ブースには14社が並び、情報交換と交流の場になった

真の目的は 情報交換と交流

後半は、毎年企業ブースを参加者が回るフリータイムを設けている。企業の担当者や参加者同士がこの時

次に登場したのは妹背牛町の辻村靖氏だ。詳しくはYouTubeでタウンズしたくなる制作技術で、もはやこの人の右に出るプレゼンテーションは誰もできない。スライドで乾直の歴史や苦勞を語りつつ、現在の装備などを初心者や未経験者にもわかりやすく説明した。そして、「映像を見てもらって終わりにします」と流したVTRが圧巻だった。見やすさやセンスの良さだけでなく、作業の技術体系がキチンとわかる構成になっていたのだ。もはやただの農業者ではない。

最後の5番手は、同じ妹背牛町で湛水直播を行なう熊谷勝氏が助っ人枠で登場した。北海道直播協議会の会長を務める直播の大ベテランで新品种の現地試験より貴重なデータを簡潔に報告してくれた。

講義後の幕間のイベントでは、私を先頭に「〇〇教授の総回診」と題してBGMに合わせたオープニングアトラクションが催された。参加者らの反応も良く、ここまでの采配は見事に的中したように思う(笑)。

間を利用して名刺交換や商談をしながら交流を深める時間だ。今年は14社が参加した。順に略称で紹介する。農業メーカーからは、コハタ、ダウケミカル、Zetec、住友化学、日産化学、三井化学アグロの計6社。機械・機器メーカーからは、レーザードロップと、無人ヘリやドローンはコハタが展示、精密農業提案としてスマートリンクの計3社。肥料メーカーからは北海道肥料と日の丸産業社の2社が参戦。農業機械メーカーは井セキ、ヤンマー、スガノ農機の3社。乾直のよろず相談所は石垣氏(スガノ農機)と私の2名で対応した。この90分間は、府県からの6名の参加者にとっても最高の交流の場となったようだ。

会場を移して夜の部に突入すると、賑わいは最高潮に。なんと本誌連載者のロブストス高垣氏が参加してくれたのだ。雪国サミットは集う場の提供が目的で、ゲストは大歓迎である。メーカー担当者に聞き足りないことを探るベテラン乾直人、今年の鋭気を養うために同志と会話を弾ませる土を考える会の会員の面々、ゲストを囲み農業機械のカスタマイズ談義をする者など、情報交換会は盛会だった。ここで全日程が終了し、閉幕となった。